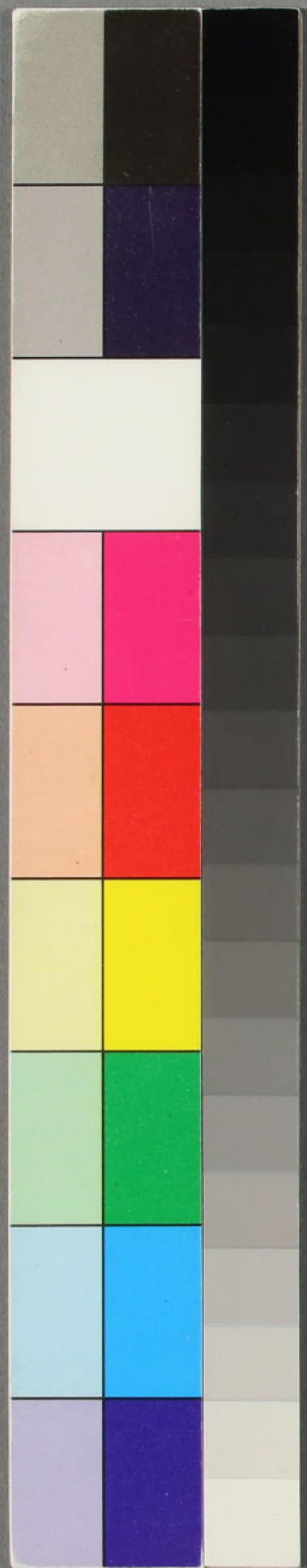


於竹大日如來略縁起



千厓文庫  
文庫24  
A 791



竊以吾朝ハ神國といへども。和光同塵の利益不可思議な  
 るが故に。天地開闢乃大古より。本地の垂跡海内ニ普く。  
 五濁惡世の末代といへども。諸佛化現枚舉するに遑  
 あらば。是よりなごう一切衆生を悉皆濟度志たまふ  
 誓き。深重無二の弘誓とぞいふべき。爰に我黄金堂不安  
 置。たてまつる。於竹大日如來の来由を尋ね奉る。往年  
 元和寛永のころほひ。武藏國比企郡小戒行堅固ある  
 聖阿りり。正身大日如來を拜せむ事を深く願ひ。千

此の巻は...  
 武藏國比企郡小戒行堅固ある  
 聖阿りり...

里の行程ぎやうも遠とほくとせむ我御山わがごやまは歩あゆむを運もぶ事年久としひさ  
きく成なりまけり一ひとを例れいの如ごとく登山とうざんして自坊じぼうは暫しばしばく止宿とど  
の折ちがひる夜中やちゆう小誰たれともあつて告つたまふく汝あなが尊容そんようを拜たむ  
せんと思おもふ是これより江戸えどは行ゆて佐久間某さくまが召よつひ竹女たけむすめ  
といふ者を拜たむを重おもしとなり此瑞夢このまのむすめ既さに三度さんど及びおよびられ  
行者ぎやうハ感涙くんでい肝きんは銘めいじて宿坊しゆくぼうありける我先人わがせんじん玄良坊げんりやうぼう  
宣安せんあんは志こころりくと談話だんわは玄良坊げんりやうぼうも靈夢れいむを感じかんて打連うちつれ  
ぢちて大江戸おほやまに登のぼりぬ佐久間某さくまハ大傳馬町おほでんばまちに住ぢして  
名高なかつたき豪家ごうかなるまに尋行たづなてあるは語かたる小是こより先せんに  
主人あし夫婦ふうふも夢む想さうの告つを蒙かねる事こと有ありて向むかひもや来るくるや  
待まちたりはれむ互たがひ小奇異きいある佛勅ぶつちやくをよらむその夜よ密ひそに  
竹女たけむすめが部屋へやを窺うかがひ兩人ふたり小拜こをがまする小不思議ふしぎある哉い平常へいじやう  
よりも殊ことに端正たんとしん美麗ひれいを見みて其全身そのぜんしんより光明くわうめいを放はなち  
一室いつしつのうち赫奕かくやくたり行者ぎやうハ此度望このたびのぞたりぬとあまきび  
礼拜らいはい稽首けいしゆ宣安せんあんと俱ともに終夜しゆうや誦經じゆきやう一ひと壘たかむはる小  
暇いとまを告つて兩僧りゆうそう互たがひに名残なごりをけり泣な々な本國ほんこくへ歸かへり行ゆぬ

斯て竹女八次の日より一間の籠籠をりて晝夜稱名を  
唱へて四五日をくりかしてありけるが寛永十五年三月廿一日の  
曉俄に屋上より紫雲たふびき室内に異香薫して大往生  
を遂にせしめぬ抑此竹女といふは常に佛名を稱して慈悲  
の心深くかゝる豪富の家は仕へて聊不足ぬ身もあれ  
ども假初も五穀を捨て我食減じて乞食牛馬も施し  
厨の水盤の水落し布衣を絞り置き洗ひ流す雑  
菜といふも総て徒らせざりけるも儲き佐久間夫婦は

人ハ度々の奇瑞を見しより信心日頃は十倍して慈悲善  
根怠る事なく現當二世の報謝のめめ若干に資財を喜  
捨して等身の尊像を彫刻し持佛堂に安置して朝暮  
崇敬あつるが其後寛文年中よりしてかゝる尊容は俗  
家におもひさ々として勿躰なりとて靈牙といひ由緒といひ  
値遇深き佛場あれは遙々當國に守護し下りて當山に安  
置し訖ぬされば人口は膾炙して或は於竹大日如來とも或は  
佐久間大日とも奉て稱し奉るぞか、倩案をりしは皆これ



羽州羽黒山  
おあけ大日如來御供米

川越高澤町  
大蓮寺



十月二日 九日迄

因帳中寶前抄公諸願成就立報報恩  
御祈禱仕多此袋下清姓名口祀  
且所供米麻束不吉如以作中取扱了

別當 玄良坊

